

第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会の概要

日 時：平成 21 年9月 25 日（金） 14:00～17:00

場 所：高知サンライズホテル「向陽」

出席者：別紙のとおり

事務局：知事、副知事、産業振興推進部長、理事（交通運輸政策担当）、総務部長、商工労働部長、観光振興部長、農業振興部長、林業振興・環境部長、水産振興部長、土木部副長、教育次長、各地域産業振興監 ほか

1 開会

2 委員紹介

3 知事あいさつ

皆様、こんにちは。

大変ご多忙の中、高知県産業振興計画フォローアップ委員会の委員にご就任を賜りまして、誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

今後、長丁場のこととなりますけれども、ぜひともよろしくお願い申し上げます。

産業振興計画のPDCAをしっかりと働かせていくためには、県庁の中だけの取り組みではいけません。外部の有識者の皆様方の目で、PDCAサイクルを厳しくチェックしていただきたい、そういう思いでこのフォローアップ委員会というものをつくらせていただき、そして、皆様方に委員にご就任いただいたわけでございます。

当たり前なことではございますけれども、この産業振興計画は、つくって終わりの計画ではありません。本気で実行していかなければならないということで、この4月から取り組みを進めてまいりました。しかしながら、実行していく過程も、単にやっただけではいけません。松下幸之助さんの「任して任さず」という言葉がございまして、それぞれの担当の裁量に任せるところはしっかりと任せながらも、進捗状況をしっかりと管理していくことが非常に重要だと思っております。

また、管理していくだけではなく、実行してみてもっと加速できると思われる点は加速していく、また、どうも現実に合っていない、直さないといけないというものについては、速やかに改訂していくことが重要だと思っておりますし、もう一つは、そういうチェック機能を働かせることによって、計画の実行そのものについて県民の皆様方の信頼を得ていくことも重要だと思っております。

私が本部長を務めさせていただいております産業振興推進本部は、これまでに会議を4回開催いたしました。1回当たり2日間かけて、PDCAサイクルの確認をしまいたところでございますけれども、その段階におきまして、計画以上に進んでいるものがある一方、計画に比べて遅れているものもございまして。単に遅れているというだけではなくて、根本的な原因があって遅れているというものもございまして。また、計画を実行していく過程で、今の計画の中でカバーしようとしている範囲が、实体经济に比べて狭すぎるのではないかという問題も出てまいりました。そうしたものにつきまして

も、今の計画の大きな枠組みの中で読み込めるものは、補正予算での対応などを通じて、できる限り修正を図ってきたところでございます。

しかしながら、あくまでも県庁の中でのチェックに留まっているところでございますので、9月以降、専門部会の部会員の皆様方に見ていただき、そして、このフォローアップ委員会という全体会で、分野を越えてご確認いただき、ご提言を賜りたいということで、本日の会の開催に至ったわけでございます。

先ほどから「実行」と申し上げておりますけれど、この「実行」については、大きく3段階に分かれて物事が進んできている、そして進んでいくのではないかと考えています。

第1段階は、計画を実行していくための体制を整備し、また、何をやるかとしているのか県民の皆様方に訴えていくという段階、いわば基盤を整えるという段階であったと考えております。先ほど申し上げました産業振興推進本部の立ち上げ、そして、地域ごとに地域本部の立ち上げという仕事がございます。地域アクションプランにつきましても、それぞれについて実行支援チームというものをしっかりと立ち上げていくという仕事がございます。また、各市町村長に協力を賜わる、地域の皆様方に協力を賜わって、地域本部を本当に実のあるものにしていくという仕事がございます。さらに、県民の皆様方に産業振興計画とは何なのかを訴えていくという仕事がございます。

これらの仕事につきましては、体制を整えるという観点から言えば、概ね整ってきたのではないかと思います。また、地域アクションプランの取り組みについては、財務や経理の面もしっかりと見ていかなければいけないということで、地域産業振興アドバイザーを各地域本部に一人ずつ配置するようにしております、もうすぐ配置が完了いたします。これによって器はほぼでき上がるということになるのではないかと考えています。

第2段階は、つくり上げてきた体制を基に、計画の中に定めた施策をそれぞれ実行していくという段階だと思っております。今がまさにその段階ではないかと考えているところです。

例えば、地産外商戦略につきましては、地産外商公社が8月3日に立ち上がって以降、様々な形で商談会や県産品フェアを開催してきております。昨年度は1年間で10件程度だったものを、今年度は既に19件実施しておりますし、これから、少なくとも17件の実施が予定されておるところでございます。うれしいのはこうした過程におきまして、こちらから頼みに行かずに、相手のほうから「高知県と一緒にやらせてもらいたい」という声が出てきたことでもあります。「引き」が出てきたというふうに思っております。昨年度までは、一つのホテルで高知県産品フェアをやってもらうのにも本当に苦勞をいたしました。頼みに頼んでやっていただくという状況でしたけれど、大河ドラマ「龍馬伝」が追い風になるということもありまして、今年度は「複数店舗でやらせてもらいたい」ということを相手側から言ってきていただける、コンビニエンスストアからも、「協定を結びたい」と言ってきていただける、そのような「引き」が出てきました。他方、こちら側も、それを受ける窓口として、地産外商公社が立ち上がり、産地との調整も同時に行っていくという体制もできてきました。チャンスをしっかりとりえる動きもできてきたのではないかと考えているところです。

とにかく、この計画に基づいて様々な施策の投入量、インプットを加速度的に増やしている、チャンスを逃さずに増やしていったらというものが、今の第2段階だと思っております。

しかしながら、大切なのは、もう少し先になるかもしれませんが、これから先に必ず始まるであろう第3段階だと考えています。計画に定めたことに従って、施策の投入量、インプットをどんどん増やしてはいますが、そのインプットが当初想定していたアウトカム、成果を本当に生むのかどうか、それが一番大切なことだと思うわけです。

いろいろな商談会を実施したけれど、それが知名度の向上、そして、成約に本当につながっているのかといったことを確認していかなければなりません。単に商談会を実施するだけでなく、その後のフォローアップをどうやってすれば成約に結び付くのか、もしくは、商品性の向上に結びついて、その次のチャンスに備えられるようにつながっていくのか、そうしたことについて、冷静な頭でアウトカム、成果を本当に得るものになっているのかどうかを確認していくことが重要だと考えております。

役所の仕事というのは、往々にして、施策の投入さえできていれば、結果どうなっても仕事はしたと言えるということで終わってしまうことが多いと思っております。私も、霞が関にいた時代に、インプットだけやっていれば、それで仕事をしたという言い訳ができる、それで満足してしまったという仕事ぶりをたくさん見てまいりました。しかしながら、この産業振興計画は、本当に県民の皆様方の雇用と所得を生み出していくための計画であります。施策を実施したということで満足してはいけません。本当に成果を生んでいるのか、そのことを確認し、生んでいないのであれば投入したインプットの質が悪かったのか、投入の仕方が悪かったのか、その後のフォローアップが悪かったのか、そのところをしっかりと確認し、新たな対応策につなげていかなければならないと考えているところでございます。

産業振興推進本部会議を4回開催したということをお知らせしましたが、このアウトカムをどうやって生み出していくのかということについて、これまでも徹底して議論してまいりました。部下を褒めるのは変な話でございますけれど、霞が関でよく批判されておるかのような、もしくは、おおよそ役人仕事といわれているような、インプットだけ投入しておれば言い訳ができてそれで良いんだといった仕事ぶりをしているようなことはないと思っております。アウトカムを目指すべく、一生懸命努力を重ねているという段階に入りつつあると考えております。

しかしながら、自らやっていることが本当に成果を生んでいるのかどうか、狭い視野での一部の検証だけでは足りません。フォローアップ委員会の皆様方に、ぜひとも広い視野で、私どもの仕事がインプットからアウトカムにつながるものになっているのかどうか、なっていないとすればこういう点を改善すべきではないかといったことについて、いろいろとご提言を賜りますようお願い申し上げます。

とにかく、この計画を着実に実行していく、そして、その過程において、アウトカムを生み出すものになっているのかという視点で確実にPDCAサイクルを回していく、その結果を単におおざなりで済ましてしまうのではなく、計画の改訂につなげ、予算に反映させていくことによって雇用と所得を生み出すようにしていきたいと考えております。

非常に長丁場の仕事となりますので、ご多忙の中、大変恐縮でございますが、委員の皆様方の真摯なるご検討を心よりお願い申し上げます、私からのあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員長・副委員長選出

- * 委員長に、国立大学法人高知大学副学長の受田浩之氏を選出
- * 副委員長に、高知県商工会議所連合会会頭の西山昌男氏と高知県市長会長（高知市長）の岡崎誠也氏の2人を選出

5 議事

(1) 産業成長戦略の取り組み状況等について

《* 資料1により、分野ごとに各部会長等から説明後、意見交換》

※ 意見交換の概要は次のとおり

ア 農業分野

【A委員】

- ・資料1の2ページの一番下に、高知市内にも県内の産品を一堂に集めた施設を作ったという提言があるが、高知市の中心市街地でのアンテナショップの開設を高知市の地域アクションプランに盛り込んでおり、民間の方々事業者となって、高知大丸のすぐ南にある新京橋プラザでの開設に向けて、実際に動き始めている。

【農業部会長】

- ・そのことは別の角度の情報として承知している。ここに載っている提言は、先日の新聞にも出ていたように、西武百貨店の跡地の利活用について知事へ提言があったことと関連しており、どういう形で連携を図るかが大きな課題だと認識しているが、新たな展開が図られることについては大変期待している。

【知事】

- ・今言われたのは、新京橋プラザにおいて、いわゆる「地域商店街活性化法」（商店街の活性化のための地域住民の需要に応じた事業活動の促進に関する法律）を活用し、民間事業者が県内各地の産品を一堂に集めるということで、中山間地域の方々にとっては、共同のアンテナショップになるのではないかと思う。
- ・これは、高知市の地域アクションプランの中に入っており、いよいよ具体化して実施していこう、「龍馬伝」の放送開始に間に合わせるようにやっていこうということだと思う。今日始まった9月県議会には、補正予算として関連予算を上程しており、提案理由説明の中でも詳しく説明したところである。
- ・それとは別の形でいろいろな提言が出てきているが、そのことについては、いろいろなの方々によって様々な検討が行われているということだと思う。
- ・それぞれ狙うターゲットや運営のコンセプトなどが違ってくると思うが、いろいろな形で中山間地域の産品を35万人の購買力を持つ高知市民に売っていこうという取り組みが、あちこちで進んでいるということだと思う。
- ・高知市民の購買力を生かすという観点では、地域の産品を売り込む場所が1か所である必要は決まっていなと思う。かなり大きな購買力なので、様々な場所で地域の産品を売ることができるということは、非常に重要ではないかと思っている。

イ 林業分野

【委員長】

- ・資料1の4ページ「追加項目」の「健全な森づくり」のところで、3つの項目の頭に付けている「◎」と「★」は、優先順位とか、重点度が違うといった仕分けになっているか。「CO₂排出削減プロジェクトの推進」は「◎」なので、3つ中で最重要項目という位置づけなのか。

【県林業振興・環境部長】

- ・「◎」の「CO₂排出削減プロジェクトの推進」は、現計画の内容を拡充するもので、あと2つの「★」は、新規に着手するものという区分である。

ウ 水産業分野

【委員長】

- ・資料1の5ページの「上半期の進捗状況に対する評価（重点項目別）」の一番下にある「前処理加工、冷凍保管による供給」について、地域の加工施設・冷凍保管庫の整備が進んでおり評価できるということだが、一方で、本日の午前中にも開催された、地産外商推進協議会の下の商品加工ワーキンググループでは、加工の場の充実を図っていかなければいけないという議論がずっと出ている。そのことをどう重ね合わせて考えていけば良いのか。ここで整備が進んでいるというのは、具体的にどのような内容をさしているのか。

【水産部会長】

- ・具体例で言えば、一つは、シイラという非常に鮮度が落ちやすい魚種の主な産地というか、水揚げ地が興津と手結で、そこでの冷凍能力を確保するという取り組みがある。
- ・もう一つは、土佐清水市のほうではメジカと言われる非常に多獲性でいろいろと利用されている魚種があるが、大型の急速冷凍施設が十分に活用されていない状態にあったので、今回、新たに手当てして、十分に能力を発揮できるようにし、また、実施主体についても、改めて検討していくといった取り組みを念頭に置いている。

【委員長】

- ・全般として見たときには、食品加工ワーキンググループにおいて、水産加工場の整備を早急に充実させていかなければいけないという議論がなされたことを申し添えるが、着実にそれへの対応が図られてきているということだと思う。

【B委員】

- ・観光分野の視点から言えば、農業も水産業もそうだが、地域のものを地域で使ってはじめて、観光としての価値が上がる。県内のホテルや旅館にできるだけ地産地消に取り組んでもらわないと、県外客に対して付加価値が高まらないという思いがある。
- ・しかし、現時点では、ホテルや旅館で高知の魚を使いたくても使えない状況にあり、それには、コ

ストや鮮度の問題があると思うので、そうしたところを具体的にうまくすり合わせていくことが非常に重要な課題である。

- ・そのため、小さな取り組みではあるが、高知県旅館ホテル生活衛生同業組合の理事長と手を組み、四国経済産業局にも支援を受けながら、まずは11社のホテル・旅館とそれができる体制づくりを進めている。
- ・実のところ、県西南部の素晴らしいホテル・旅館に泊まっても、朝飯に塩鮭が出てくるという悲しい状況にあるので、高知が誇る魚が食べられる状況になるよう、みんなが常に心掛け、口に出していく必要があるのではないかと思う。

【県水産振興部長】

- ・資料3の9ページの水産業の産業成長戦略を総括したフロー図の中に、「養殖生産物の流通・販売の強化」と「土佐の魚の消費拡大」を新たに盛り込んでいる。
- ・今、話があった「土佐の魚の消費拡大」については、この中の「観光客を対象とした消費拡大対策」として、例えば、高知に来て高知の魚を食べるにはどこに行けば良いのかといった情報を提供していく必要がある。特に、「土佐・龍馬であい博」に向けて、こうした情報が必要だと思う。
- ・高知のホテル・旅館でどうしても県外の魚が出てくるのかということについては、流通が今後とも大きな課題なので、今の意見をもとに、いろいろな話合いの場で協議していきたい。

工 商工業分野

【委員長】

- ・「海洋深層水の利用拡大」という追加項目については、まさに地域アクションプランの取り組みとも関わってくる内容だと思うが、そうした点についてどのように考えているのか。

【県商工労働部長】

- ・海洋深層水については、産業成長戦略のほうには取り出した記述がないが、安芸地域のアクションプランには、深層水関連商品の売上額を155億円まで上げていこう、また、海洋深層水を生かし、メタボ対策のツアーなどにも使っていくような形で、観光面でも生かしていこうといった位置づけや動きがある。
- ・特に、今回の計画は、本県の持つ強みを生かしていくということが1つの大きなテーマになっていることから、地域アクションプランにも位置づけ、地域で一生懸命に取り組んでいるものについては、産業成長戦略にもきっちりと位置づけた上で、連携を図っていくべきであるという意見を踏まえて追加するものなので、連携ということに十分に気を遣って取り組んでいくようにしたい。

【知事】

- ・地域アクションプランと産業成長戦略との関係について改めて整理をさせてもらいたいと思うが、地域アクションプランの中には、地域の方々の自発的な意思によってできたプランもあるし、一方で、産業成長戦略の中で極めて地域性が高く、地域において産業成長戦略を具現化していくものとしてできたプランもあり、上から下へと下から上への両方の流れがある。

- ・海洋深層水については、県のほうでいろいろ取り組むというよりも、むしろ地域アクションプランで、海洋深層水を使って地域を盛り上げていこうという動きが強くなってきたが、実際に実行過程を見てみると、かなり大規模な産業で、さらに、課題があることも分かってきた。
- ・もう一つは、これを食品加工の分野で生かしたいという高知市周辺のいろいろな方々の動きも出てきており、地域アクションプランとしての地域の自主的な取り組みにとどまらず、県全体のものとしてバックアップすべき課題ではないかということになってきた。
- ・そうしたことから、県全体を見据えながら地域の取り組みをバックアップしていくために、産業成長戦略でもより本格的な対策を講じるべきだということで、項目を追加してはどうかということになった。
- ・ちなみに、県には2年前まで海洋深層水対策室があり、そこでいろいろな形でバックアップをしてきたが、残念ながら今、海洋深層水産業は成熟産業になりつつあり、市場が飽和してきている。
- ・今回は、それをブレイクスルーして新しい商品を作っていく、リードタイムが短い我々が先行利得を得ていく、新しいステージを狙うために何をすべきか考えようというのが、この産業成長戦略だと考えている。2年前までやっていたではないかと言われるかもしれないが、これから取り組もうとしていることは全然違うと考えている。

オ 観光分野

【C委員】

- ・「土佐・龍馬であい博」は長い期間をかけて観光分野を盛り上げていこうという計画で、非常に良いと思う。
- ・以前は、地下鉄に誘客のためのポスターのようなものがあったが、今はそういったキャンペーン、あるいは、高知県の魅力を表したものが、地下鉄だけでなく、都市圏の交通機関にほとんどないので、例えば、モノレールや山手線、空港といったところに連続して出せないか。
- ・特に、大変魅力的な「龍馬伝」のポスターは、なかなか使わせてくれないかもしれないが、「土佐・龍馬であい博」をもっと早く関東や近畿などの都市圏でPRしていくために、何らかの方法で使えるようにできないか。少なくとも、山手線の電車の中にポスターを張ったり、電光掲示板で流してもらうことができないか。
- ・その辺をスタートにして、ぜひ急いで取り組んでほしい。特に、空港に高知県の大きい観光ポスターが全くないというのは、立ち遅れていると思う。

【観光部会長】

- ・2年ほど前にも、空港で高知の観光を売り出したいということで、県の観光部と話をしたことがある。コストに対して効果がどうなのかと言われると説明が難しいが、高知へ誘客するためのポイントとなるところで、高知を出していきたいという思いがある。
- ・当時は、浜松町のモノレールのところが空いており、そこで高知を出すことができればかなり効果が上がると考えていた。

【知事】

- ・山手線もモノレールも東京メトロも全部借り切ってやりたいのは山々だが、莫大な金がかかる。今の懐事情からすれば、比較的安くて一挙に何十万人、何百万人の目に触れるようなところで、ポイントを絞ったことをあちこちでかなりの回数やっていくという戦略をとらざるを得ない。
- ・ただ、かなり効果的なところを選んでやっていくことになると思っている。例えば、テレビ番組では、ゴールデンタイムで30分の枠を買えば、1~3億円が30分で消えてしまうが、BS放送であれば1時間の枠で版権の確保も一定できて、桁が2つぐらい少ない金額で制作と放送ができるし、BSの番組でも百万人単位で見られることがある。ゴールデンタイムで有名人に出てもらい、案内をしてもらいたいところだが、それだけの金はないので、B/C（BバイC）で見ても非常に効果の高いところを狙っていくようになると思う。
- ・とは言いながらも、今回は「土佐・龍馬であい博」があるので、全体的には少し派手なこともやろうかと思っている。例えば、正月明けに東京駅近くの丸ビル（丸の内ビルディング）で、「土佐・龍馬であい博」の開幕直前プロモーションと県産品の販売促進活動をやろうとしている。また、モニターで15秒ずつ1日に何回も「土佐・龍馬であい博」などのCMを映せば、何十万人どころか、百万人もの人に見てもらえることになるので、三菱地所さんのご厚意によって、かなり安価にやっていく予定である。
- ・その他にも名古屋では、名古屋空港に近接しているショッピングモール（アピタ名古屋空港店）において、11月下旬に高知県フェアを開催し、「土佐・龍馬であい博」のPRを行う。また、先月は、名古屋の「にっぽんど真ん中祭り」で、百万人を超える人が集まる場所でもPRを行った。
- ・山手線やモノレール、東京メトロで1週間広告を吊るすぐらいのお金があれば一番良いが、それがないため、今、その何分の1の経費で、あちこちのできるだけ効果的なスポットでポイントを押さえて広告を打ちこんでいくという作業を続けている。
- ・それから、インターネットの世界で、口コミを広げていくことも狙っていききたい。これは、最終的にはコストの掛からない、無料広告がどんどん広がっていくこととなるので、非常に狙い目だと思っている。
- ・また、高知への旅に関する「ブログコンテスト」をやり、いわゆる「ブロガー」の皆さんに高知県に来てもらって、あちこちを見てブログで良い書き込みをしてもらうということをコンテスト形式でやっていく。そうすることで本県に来てもらえる方々に、ブログの世界でどんどん話を広げてもらう。ウェブマガジンの取り組みとも連動してやっていく。いろいろなメディアを使ったり、様々な場所で大規模なことやメジャーなことはできないが、ポイントを突くような対策によってPRしていきたい。
- ・気がつけば長崎よりも露出しているというようにしていきたいと、今、意気込んで取り組んでいる。総合力の差で勝てると思っているので、安心してもらいたい。

【A委員】

- ・首都圏での本県の露出は少ない。いろいろな駅を通るたびに、駅に置いてある旅行パンフレットを見るが、四国全体が少ないし、中四国でまとめられて出ているパターンが多い。
- ・ただ、パンフレットを大量に置くにはお金が掛かるので、首都圏に打って出るには、インターネットの活用が良いのではないかと思う。
- ・今回、「旅色」というウェブマガジンの中で、高知市だけでなく高知県の観光スポットを女優に案内

してもらおう。この案内役は、「龍馬伝」で龍馬の姉の「乙女姉やん」を演じる寺島しのぶさんにってもらおうこととなり、先日、第1弾の撮影が終了したので、9月末には公開されると思う。これは、四季折々にやっていくということで、次は11月ぐらいに撮影し、そして春にも撮影していくという感じになる。特に、我々からすると「乙女姉やん」は「龍馬伝」の準主役級だと思っているので、1月から「龍馬伝」が始まれば、「乙女姉やん」と連動させて案内していくということも準備している。

- ・これには、あちこちからリンクを張ったほうが良いと思う。当然、市役所のホームページにもリンクを張るが、県のほうでも、いろいろなところからリンクを張ってもらいたいし、「土佐・龍馬であい博」の関連のホームページにもリンクを張ってもらおうと思っている。そうすることでネット上の露出というものをできるだけ増やしていきたい。

【知事】

- ・観光関係について、ものすごく冷静に考えたときに一番大切なことは、旅行商品がたくさんでき上がることだと思っている。
- ・確かに、四国向けの観光旅行のパンフレットが少ないと言われるが、これはお金を掛けていないからではなく、旅行会社に旅行商品として取り上げられていないということなので、こうした冷静な自己認識のもとに売り込みをかけていかないといけないと思う。
- ・そういう考えでこの4月から、JTBや近畿日本ツーリスト、日本旅行、名鉄観光などに対して、徹底してセールス活動を行ってきており、10月1日には、一斉に高知関係の旅行商品ができ上がる。近畿日本ツーリストでは東京本社で龍馬関係の商品がシリーズででき上がるし、日本旅行もしかり、JTBもしかりといった形で、一斉に企画商品ができ上がることになっている。
- ・ただ、急場づくりでどんどんセールスしてきているため、足元の受入態勢が十分に整っていないというネックがある。例えば、二次交通の整備を全力で進めてきて、10月、11月ぐらいからいろいろな仕組みが一挙に立ち上がることになる。ある意味、二次交通の整備という観点からは、最大の速度で準備ができたのではないかと思っているが、これがまだ旅行商品の中に入っておらず、PRができていないという意味では、中途半端な形で終わっている。まずは地場を磨き上げ、旅行会社へのPR活動を繰り返すことによって商品の質を高めていく、そしてより多く売れる商品ができ上がる、それから新橋の駅の棚に高知のパンフレットがたくさん並ぶという順番だと思うので、今後も、こうした取り組みを続けていきたい。
- ・昨日、近畿日本ツーリスト、JTB、日本旅行の西日本支社へセールスに行き、二次交通はまだ荒いプランではあるが内容をPRしたところ、これなら商品が随分売りやすくなると言われた。一般向けの広告プラス、こうしたプロ向けのPRやセールスという組み合わせで、観光の盛り上げを図っていかねばならないと思っている。

カ 連携テーマ（地産地消・地産外商戦略）

【B委員】

- ・資料1の11ページにある県産品・観光情報PR紙「ちゃお！高知」の発行と県の新しいポータルサイトの開設について、観光コンベンション協会が発行している「ゆるり 土佐時間」（総合観光パ

ンフレット) や、400 万件のアクセスがある「よさこいネット」とは、どういうふうに機能をサビ分けし、何を狙っているのか。

【県地産地消・外商課長】

- ・「ちゃお！高知」は、県外の高知県人会や、高知県ファンというか、高知に縁のある方々などに高知県の観光や物産をPRし、応援してもらおう、高知への思いを持っていただいている方々と双方向のやり取りを継続的にやっていきたいという狙いで創刊したものである。現在、県の広報紙「さんSUN高知」をそうした方々に送っているのので、それと一緒に送付している。
- ・ポータルサイトについて、観光分野に関しては、ここで新しいコンテンツを作ることは予定していない。ポータルサイトのトップページでは、「土佐・龍馬であい博」の関係は、当然、リンクを張ることになると思うが、その他の具体的な観光のコンテンツについては、「よさこいネット」へのリンクを張らせてもらうといった形で、役割分担をさせてもらいたいと考えている。

【B委員】

- ・観光振興部とのサビ分けという点はどうなっているのか。

【知事】

- ・このポータルサイトが入り口となり、その中にいろいろな分野があるという形になる。観光については、「よさこいネット」をそのまま使っていくことになるが、物産の売り込み情報などは、今、十分なものがないので、売り込みのためのサイトを設けていく。
- ・また、個々の企業がeコマース（電子商取引）をやっていく際に、SEO（検索エンジン最適化）対策で苦労されているが、高知県という名でサイトの入り口を一本化し、対策を講じることで、検索の際に上位に表示されやすくなる可能性がある。
- ・いずれにしても、観光に関するものを別につくり、お互いに食い合うようなことをするのではなく、今あるものを生かしながら、総合窓口をつくるのがこのポータルサイトである。

【B委員】

- ・ポータルサイトの意味は分かったが、「ちゃお！高知」はプラスアルファとしてつくる必要があるものなのか。

【県地産地消・外商課長】

- ・ポータルサイトと同じような役割ではないのかという考え方もあると思うが、これだけインターネットが普及しているからそれで十分かということ、一方で、「さんSUN高知」の例からすれば、紙媒体による情報伝達が有効という考え方もある。
- ・これから県外に向けて物産を売っていく、地産外商を進めていくために、まずは、高知県に縁のある方に協力いただきたいという思いでつくったものである。

【知事】

- ・年齢層が様々で、ポータルサイトにアクセスされる方ばかりではないため、紙媒体のほうが優れている場合もある。紙媒体といってもせいぜい1枚で、「さんSUN高知」を送っている県人会関係

者の方々に、特に、売込みのターゲットとなる物産などについて表裏に記したチラシを送るというものである。ポータルサイトを紹介するにしても、紙媒体のほうが優れている場合があるので、そこでいろいろなサイトを見てくださーいといったPRもしていく。

- ・もちろん、これだけに頼ってしまってはいけませんが、地産外商戦略の出発点として、県外の県人会の方々により強くアピールをしていこうということである。
- ・「ゆーり 土佐時間」とは量的にも質的にも全然違う、チラシ 1 枚ぐらいのものを送ることで、特に紙媒体を嗜好される方々に、よりピンポイントの情報を提供していくということである。

(2) 地域アクションプランの取り組み状況等について

《* 資料2により、各地域産業振興監から地域ごとに説明》

(3) 計画全体の進捗状況に対する評価等について

※ 概要は次のとおり

【委員長】

- ・このフォローアップ委員会としてトータルでの自己評価をしたい。自己評価という言葉を使ったのは、この中のかなり多くの方々が実質のプレイヤー、あるいはその責任者にもなっているという意味で、自己評価をしていく立場ということもあると思う。
- ・さらに、外部の皆様方に全体の進捗状況をより客観的に評価していただく必要があると思う。ここまで議事(1)と(2)のところまで報告を受け、全般について、概略としてどう評価されるか。特に、有識者の委員として、域外からも出席してもらっているので、全体を見てどう評価されるか簡単なコメントをいただきたい。

【D委員】

- ・全体の話をついて、冒頭で知事が言われたことがある意味ではすべてだと思っているが、現時点では具体的な成果がまだ見えてくるという段階ではなく、その成果に向けて具体的な施策が動き出したところであり、こういうことをやっているという報告をいただく段階だと理解している。
- ・従って、現時点では本当の意味での評価ができるわけではないと思うが、そうは言っても、実行段階に入って半年の間にこれだけの案件が実際に動き出しているということは、客観的に見て、スタートとしては非常に良い動き出しではないかと理解している。
- ・私の仕事も公的機関の一端を担っており、官僚組織のようなところがどういう動きをするのか実感してきているが、県庁の皆さんから組織が変わったと伺っているし、やり方も変えながらこれだけ具体的な取り組みを進めてこられている。それから、県庁だけではなく、民間の主体の方々も実際に参画しながらこういう案件が動き出しているということなので、非常に素晴らしい動き出しをしていると思う。
- ・現段階での希望としては、ぜひ、このままのペースで継続してってもらいたい。今後、半年でそうした成果が出てくるかどうかは分からないが、いずれ、一つひとつについて本当の評価をする段階

がくると思うので、そこは冷静な目で成果を評価しつつ、どういう改善ができるのか考えていてもらいたい。

【E委員】

- ・県の集落活性化アドバイザーも務めさせてもらっており、十分ではないにしても、県内の特徴的な地域を見せてもらっている。県内にはいろいろな問題があると思うが、結局のところ、雇用さえあれば、いろいろな問題が吸収されて、地域経済の課題は解決すると思う。
- ・そういう意味では、資料2の地域アクションプランの進捗状況として、「◎」や「○」の割合が多く、概ね順調でしっかり進んでいるということだが、高知県の雇用の問題は相当奥深く、そう簡単には解消できないという現状とは、つじつまが合わない。
- ・地域アクションプランは、今年度の段階でできることに対して、スタートして半年でここまで進んでいるということなので、これに全部「◎」や「○」がついたとしても、資料1に書かれている課題をすべて解決することにはならないというぐらい、具体的な行動やアクションはまだ先の先にあるのではないかと感じた。
- ・この産業成長戦略が高知県の生命線であるということを改めて実感したが、それが抱えている課題を実際に解決するには、相当時間が掛かると感じている。

【F委員】

- ・産業成長戦略と地域アクションプランの進捗状況を聞き、概ね計画どおりに進んでいることを大変うれしく思っている。
- ・冒頭、知事のあいさつの中で、この計画については、3つの段階で進むと考えているという話があったが、そうした中で、国においては政権交代という形での大きな変化がある。政策の転換等も言われているし、補正予算の執行停止を検討するといった動きもあるが、そういった動きが産業振興計画に対して、何らかの影響等を及ぼすのかどうか。県民運動になりつつある産業振興計画については、こういった動きがあろうとも粛々と計画どおり進めていかなければならないと思うが、影響が懸念されているのか。
- ・また、来年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」を使わない手はないということで、「龍馬伝」を使って高知県のPRをしたいというのが皆さん方の意見だと思う。先日、知事と高知市長がNHKへ行き、いろいろな形で要望をされたと聞いている。大河ドラマは45分間の中で40分過ぎにドラマが終了し、あとの2、3分は次回の予告のほか主人公ゆかりの地の紹介などがされるが、NHKに要望し、ゆかりの地の紹介の回数を増やしてもらえれば大きなPRになると思うので、できる限りの方法を考えてもらいたい。

【G委員】

- ・冒頭の知事のあいさつの中に、非常に重要なキーワードがあった。それは、インプットとアウトカムということだが、今日の説明は、アウトカムではなく、途中のアウトプットについての進捗状況や評価ではなかったかと感じる。
- ・従って、今は時期が早いかもしれないが、次回からはアウトカムに対する評価を踏まえた議論ができれば良いのではないと思う。

【H委員】

- ・元々の計画が非常によくできていると思う。枠組みがしっかりしているので、話を聞いていて非常によく頭に入る。
- ・ただ、アウトカムがすべてだとすれば、それを実現するために、今の段階で見えているアウトカムは何なのか、見えそうなアウトカムは何なのか、皆さんが共有しながら進んでいくことが非常に重要ではないかと思う。

【I委員】

- ・これまで、こういったプランの策定にいろいろと関わってきたが、そこから見ても、今回は、細部まできちんと詰めながらやっていることに非常に感銘を受けたし、そのことが全体図をきちんとつくっていくことにつながると思う。アウトカムの議論等はあるが、このやり方を続けていてもらいたい。
- ・一つだけお願いがあるが、四国内の他県の企業群の力も借りてもらいたい。高知には素晴らしいものが多いことは分かっているが、それだけですべてを回すことはできないので、外の力も活用するという観点で物事を進めてもらいたい。

【知事】

- ・補正予算の執行停止という議論によって、この産業振興計画が影響を受けることはないと思う。これは高知県が知恵を絞ってつくったものなので、国が予算の執行について、いろいろ判断をして変更するからといって、高知県で一生懸命考えて実行しているものが止められて良いわけではないし、そのような権限は国にもない。だから、政権の交代や補正予算がどうなるかが、高知県産業振興計画は、今後も着実に実行していくということである。
- ・ただ、あえて言えば、これまで財源として予定していた国の補助金が使えなくなったので、県単独事業に切り替わるとか、国の産業に関する計画が、例えば、東のほうを向いていたものが北東の方向になったので、それに伴い微修正するといった形での調整は必要かと思うが、産業振興計画自体の動きが止まるようなことはないと考えている。
- ・インプット、アウトプット、アウトカムについては、正直なところ、まだアウトカムが生まれるような段階ではなく、今はインプットできる体制が整い、インプットを集中的にやっている段階である。特に、地産外商公社ができたので、地産外商に関することが一斉にメインエンジンに点火したというような状況にあると思っている。これから大切なことは、それが具体的な成果、アウトカムにつながっているのかどうか、もしくは、つながりそうかどうかということを細心の注意でチェックしていくことで、ときには舵を切ったり、エンジンのふかし方を変えたりするといった形で、成果を生むように誘導していくことが非常に重要だと考えている。
- ・何が見えているかということ共有していくことは本当に大切だと思う。産業成長戦略及び地域アクションプランでは、それぞれ個別の目標値を定めているが、その目標値を改めて見ていくことが大事で、到達点が見えているから微調整ができると思うので、今後、庁内でもそうしたスタンスを徹底していきたい。
- ・地域アクションプランの取り組みの進捗状況については、書き方が良くないかもしれないが、年間の実施計画で定めたとおりに実行できているかどうかを示している。例えば、仕分が「A」の案件はそろそろ成果を生み始める可能性が高く、「B」は準備中、「C」は企画段階ということで、「C」

の案件でも、計画通りに練り込みが進んでいけば「O」なるが、成果を生むようにはなっていないものがたくさんあると思う。そういう意味では、今後、「A」の案件がどれくらい増えるかが、アウトカムに関わることとしては非常に重要だと思う。

- ・次回からは、「B」から「A」、「C」から「A」にどれだけ上がったかを示し、アウトカムを意識した説明をしたい。すぐに成果が生まれるほど簡単ではないが、そうしたことを意識して取り組みを進めていくという姿勢で頑張っていきたい。

【委員長】

- ・PDCAサイクルを回していくということで、チェック（C）とアクション（A）を充実させていくことは論を待たないわけで、評価をしていく上では物差しがあって、より客観的に批判的に見ていかなければならないというのは当然のことである。
- ・産業振興計画は、我々が将来の高知の発展のためにつくった計画なので、その進捗状況として、将来に向かって今よりも前進するような取り組みに具体的に着手され、歩みを進めているということは、着実にその方向へ向かっているという判断で良いのではないかと思う。
- ・第1回フォローアップ委員会としては、産業成長戦略に関する各部会長の報告も概ね計画どおりに進捗しているということ、また、地域アクションプランについても、多くの取り組みで計画に沿った推進が見られるということなので、「実行元年の産業振興計画自体は、まずもって順調に歩み出した」という評価で、委員の皆様方に概ね納得していただけるのではないかと思う。
- ・それから、ただ進めれば良いということではなく、アウトプットからアウトカムへと、雇用の創出も含め、県経済の浮揚に向けて社会的・経済的な指標が向上していくことを、今後、フォローアップ委員会の場で可視化していくことに、県庁を挙げて取り組んでいただきたい。第2回、第3回のフォローアップ委員会の場において、それをより具体化していくことを課題にさせてもらいたい。
- ・今年度、一部改訂する内容については、資料3に載せているのでご覧いただき、意見等があれば事務局まで寄せてもらうということで、大筋としてはこの方向で進めさせていただきたい。
- ・今後、このフォローアップ委員会は、年が明けて1月に第2回を予定している。先ほど、各部会長から改訂すべき内容等の説明があったが、こうした次年度の予算に反映させるべきものが具体化し、このフォローアップ委員会の場が上がってくることになると思う。
- ・また、それまでに予算を必要とするものは補正予算に反映させるなど、県議会としてもできるだけ早く対応してもらうことで、計画の推進を加速していただきたい。

6 閉会

【知事】

先ほど、十分に申しあげましたので、短く終わらせていただきますが、今日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

今日、フォローアップ委員会の立ち上げをさせていただきましたが、計画の実施状況につきましては、まだインプットにとどまるもの、アウトプットに至っているもの、アウトカムが出始めたもの、いろいろな段階のものが出てこようかと思っておりますので、それぞれについてきめ細かくお示しさせていただきますと思います。

そうした情報を提供させていただく中で、いろいろとお気づきの点がございましたら、次回のフォローアップ委員会までの間でも、いろいろとアドバイスや励ましをいただければ幸いです。本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。